

感情の身体性に関する心理尺度の開発

岡田敦史¹⁾ *、行場次朗²⁾

1) 青森県立保健大学、2) 東北大学大学院文学研究科

Key Words ①感情 ②モダリティ・デファレンシャル法 ③ボディロケーション尺度

I. はじめに

日常生活では、さまざまな感情を経験し、感情とはどのようなものであるか知っていると思込んでいる。例えば、幸せな気持ちを表わすとき「幸せを味わう」とか「幸せにくるまる」と表現する場合では幸せ感情の質は異なっているであろう。また、悲しい気持ちを表わすとき「胸が張り裂けそうに悲しい」と表現される場合と、「唇を噛みしめる悲しさ」と表現される場合では悲しい感情の質は大きく異なるであろう。味覚・温覚・触覚などや身体部位を使って形容することで同じ感情でも微妙なニュアンスの違いを表わすことがある。つまり、感覚モダリティや身体部位を使って緻密に違いを表現している。

II. 目的

本研究では、鈴木ら (2006) により開発されたモダリティ・デファレンシャル法 (MD 法) を用いて感情と感覚モダリティとの関連性を調べることを目的とする。同時に、感情の身体関連性についても検討するため「ボディロケーション尺度 (BL-S)」と呼ぶ新たな心理尺度を試作した。本研究では、感情カテゴリーとして6つの代表的感情 (しあわせ、悲しい、恐い、怒り、驚き、嫌い) を使用した。

III. 研究方法 (または「研究の経過」等)

1. 対象とした感情及び MD 法と BL-S

6感情について MD 法により評定を求めた。感覚モダリティとしては、視覚・温覚・嗅覚・平衡感覚・痛覚・聴覚・冷覚・味覚・身体運動・触覚の10種を使用した。加えて、BL-S では、身体部位と上記の6感情との関連性について評定を求めた。使用した身体部位としては、額のあたり・喉のあたり・喉と胸の間・胸のあたり・胸と胃の間・胃のあたり・胃とへその間・へそのあたり・へそと下腹部の間・下腹部のあたり・内臓のあたり・上半身・下半身・腕・足・からだ全体の16部位であった。

2. 実験参加者および実験計画

大学生156名 (男24名、女124名、性別未記入8名) (平均年齢18.79, SD=1.07) 集団で実施。概ね10分程度。6感情について、それぞれ感覚モダリティと身体部位について、どのくらい関連があるか7段階評定を行った。なお、より直感的に評定しやすいように調査用紙には、評定スケールに関連の度合いを示す直角三角形をアイコンとして付加した。

*連絡先：〒030-8505 青森市浜館間瀬58-1 E-mail: a_okada@auhw.ac.jp

IV. 結果

6感情について10種類の感覚モダリティごとに平均値,SD,変動係数(CV)を算出した。鈴木ら(2006)の分類に従い感覚モダリティは近感覚(温覚,冷覚,臭覚,触覚,痛覚)と自己受容感覚(身体運動感覚,平衡感覚)及び遠感覚(聴覚,視覚)の順に横軸に並べたMDプロフィールを作成し,MDデータを用いて6感情についてクラスター分析(ウォード法)を行った。BL-Sについても同様に6感情ごとに平均値を求め評価プロフィールを作成し,クラスター分析を行った。

V. 考察

1. 感情と身体・感覚との関連性について,次の3点について考察する。

- 1) 感覚モダリティプロフィールから6つの感情ごとの特徴が表われていた。第一の特徴は,遠感覚では感情ごとの違いが少なく感情特異性は小さい。近感覚では,6感情は感覚モダリティごとに大きく異なっており感情特異性が存在することがわかった。第二の特徴として,感情ごとに注目すると例えば「しあわせ」は味覚・温覚・触覚などの近感覚と視覚・聴覚の遠感覚に関連が強い。また,「悲しい」は全体的に低い,冷覚・痛覚・視覚・聴覚に関連が強いことがわかった。
- 2) BL-Sプロフィールからは,感情ごとの特色は感覚モダリティほど顕著ではなかった。しかし,「悲しい」は身体部位との関連が全般的に低い。また,どの感情も「胸」との関連性が強いことが示された。
- 3) クラスター分析からは,MDデータでは,「悲しい」と「怒り」が同じクラスターに入り「しあわせ」と最も距離があった。BL-Sデータも「しあわせ」と「悲しい」は最も距離があったが,BL-Sでは「悲しい」とそれ以外の感情と大きく枝分かれすることがわかった。

2. 結語

今回の分析から,感情と結びつきやすい感覚モダリティが存在することがわかった。また,身体部位との関連性についても感情ごとに特徴的なプロフィールが示され,特に心臓のある胸の部位が従来から「心の座」と言われてきたことがよく理解できた。

VI. 文献

鈴木美穂・行場次朗・川畑秀明・山口浩・小松紘(2006). モダリティ・デファレンシャル法による形容詞対の感覚関連性の分析 心理学研究,77, 464-470

VII. 発表 (誌上発表、学会発表)

学会発表

第12回東北心理学会・北海道心理学会合同大会(東北心理学会第70回大会・北海道心理学会第63回大会)2016年10月 福島市(コラッセふくしま)

誌上発表

東北心理学研究 (2017) 第66号 p57 東北心理学会